

阻害についての推定原因に説が分れていると見てよい。これは実験方法の精密さとも関係があり、将来はもっと精密な方法で比較検討してその理由を説明する必要がある。

(四) 結 び

ヘテロスタイリーについての現在までの実験と推論は、まだその根底に解決されないものを沢山残している現状である。

花柱の長さが異なるものの間にだけ受精が行われるという事実ははっきりしているが、この事実の解明

はなかなか困難である。花柱の長さは花器の一部の伸長に原因するが、それが受粉～受精とどんな生理学的関連があるかは、容易に推測もできない。

辛うじて現在まで明かにされたことは、花粉管の伸長の阻害がどのような場合に起きるかという点であって、阻害のメカニズムの解明を一步も出していない。

この阻害のメカニズムが、形態的な花柱の発育の差異とどういう結びつきがあるかが判明しない間はヘテロスタイリーの根本的説明はまだまだ遠い今後の問題として残されるといわねばならない。

木 曾 谷 産 植 物 目 録 補 遺

奥 原 弘 人

H. Okuhara: Supplemental notes to the flora of Kiso District

ミカエリソウ *Comanthosphace stellipila* S. L. Moore 先年林弥栄博士から木曾谷にもミカエリソウを産することを指摘されていたが確認することができなかった。ところが一昨年(1977)秋ある地区の調査にあたっていて偶然にも花の終りかけたもの数株を見つけることができた。本種の主産地は紀伊半島で北は福井県、西は岡山県にも産するようであるが、分布の東縁については濃尾地方のフロラに精通しておられる北波一雄氏が愛知県の本宮山と岐阜県の八百津付近に産することを述べている。木曾の産地は僅かながらそれらより東である。暖帯に分布してソハヤキ要素の一つとみられている本種にとって木曾の産は貴重である。

アザミの間種 *Cirsium microspicatum* Nakai × *C. nipponicum* Makino ヤナギの間種は多く発表されているが、アザミは種類が多いにもかかわらず間種はあまり発表されていない。しかし実際は少ないと思われる。私は先に2種の間種を発表したが、近年アズマヤマアザミとナンブアザミとの間種とみ

られるものに気づいていて昨年も木曾の味噌川国有林と松本市の犀鉾泉付近で計3株を見ることができた。花序の状態・総苞の大きさ・総苞片の形など両種の中間で、この地方のアズマヤマアザミは総苞片の粘着するのが普通であるが、これも微かではあるが粘着を感じた。両種の混生地であることと形態から間種と考えられる。

キンセイラン *Calanthe nipponica* Makino

キンセイランは飯沼慾斎の「草木図譜」にも出ているように木曾で発見されたもののようであるが、私は木曾では見たことがなかった。それが昨年木曾の北部の調査にあたっていて、ついにそれを確認することができ、南部にも土地の人の栽培から産することを知った。キンセイランは北は北海道から西は九州にわたって広く分布するようであるが、どこにでもあるものではない。最近エビネ類の栽培が盛んであるから産地がわかれば乱採のおそれがある。よってミカエリソウとともに詳細な産地をここに記すことを差控える。

【植物ニュース】 29. オオシダザサ *Sasa oshidensis* Makino et Uchida

本種は本州の表日本にまれに分布する。岩手・宮城・福島・静岡・滋賀・三重・奈良・京都の各県の一部に産することになっている(鈴木貞雄:日本タケ科植物総目録)。

1978年6月、釜無山系の白川溪谷、標高1,600 mの夏緑広葉樹林内で採集した。

鈴木貞雄博士に同定をいただき、長野県では初産であるとの御教示をいただいた。厚くお礼申し上げます。(今井建樹)